

# 日刊セイケイ

## 2010 大村市長選レポート

## かわら版

天、自ら我を擧ぐん  
天體之體はくはまはるかに  
おぼろげにけしきもあはれ  
何をか眺むべしはばさるる  
天にまはるる



インターネット長崎奉行

〒850-0931 長崎市南山手7-3 編集長：遠山金四郎

### 市長選挙よりも面白い、大村特需 (約160億) 争奪戦!

**健全な「精神」は健全な「肉体」に宿る!**

9月26日告示、10月3日投票開票、大村市の明暗を分ける1週間の熱い戦いが始まった。

思い出せば8年前、平成14年6月政界への復帰を果たさんと、大村駅前前のビル2階に事務所を開いた松本氏と私は、数年ぶりにその事務所所で再会した。松本氏は「ある事件」で執行猶予付きの有罪判決を受け、公民権停止が解除されたばかりだったが、政界復帰の決意を語る松本氏の目がガマドクのように異様だったのを今でも思い出す。その後、松本氏は黄色い「カエル」をマスコットにしていたが、あのカエルは今思えば、ガマドク(蛙)だったのかも知れない。当時、現職で3期目を目指していた甲斐田氏の箱物行政(シーハット大村等々)は評判が芳しくなかった。大村市の財政は危機的なものであった。そこに大村ポートの赤字も重なり、いよいよ財政は危機に瀕していた。

### 大村市長選スグ戦へり

大村市長選の告示を4日後に控え、各陣営スグ戦へりだが、事実上、現職の松本候補と新人で前議長の



松本崇大村市長

返り咲きを渴望していた松本氏は、平成14年9月の市長選挙に立候補現職の甲斐田市政の箱物行政をこれでもか、これでもかと激しく罵倒し、甲斐田氏を木端微塵にふっ飛ばし、執念で返り咲きに成功した。

8年前、平成14年9月30日の松本氏の当選の瞬間の喜びは今でも忘れない。その後、色々と判明した私が知らなかった松本氏と石橋一味のダイタイで黒い関係、仕掛けられた裏切りも忘れられない。あれだけ箱物行政を批判していた松本氏が、今、その箱物行政で黒い噂が囁かれてい

る。それでも8年間、私は沈黙を守り、2期8年、静かに松本氏を見ていた。「もうよからう」というのが今の私の心境である。「健全な精神は健全な肉体に宿る」10月3日、馬力、元気、ヤル気の新しい大村市長の誕生で、松本氏には心からお疲れさんと言つてあげたい、今日この頃である。

【長崎浪人・中山洋二】

里脇候補の事実上の一騎打ちの戦いとなつている。どうしても現職に対し、知名度が低かった里脇候補がここに来て、ほぼ互角の戦い。

一か月前の評判では、「里脇の知名度では、現職の壁を乗り越えまい。」と現職有利の声が多かった。しかし、やはり市長選、市民の関心がうすかったのが、告示前が近づくと感心がグーンと高まり、それにつれて、情勢も大きく変わりつつある。現状は現職も里脇候補も肩を並べ、若さと行動力が浸透

し里脇候補を応援する人が、日に日に増えつつ、このまま選挙戦に突入すれば抜け出すだろうとの見方が広がってきている。その要因は色々と考えられる。

まず、第一は「わが町のトップはどんな人がいいのか。」市民一人一人が真剣に考え、それが市民に浸透し、市政への関心が広がってきている。

第二はやはり現職の健康問題である。市政を引っ張る、けん引役のトップが健康を著しく害し、自分の力で立つことも出来ず、常に二人位の人が必要という状態は異常である。この体の状態を見てしまった市民は、びっくりにして、「なぜこんな体で、市長の座にしがみつくなのか。」との声が日毎に増ってきている。



ガマドク

第三は市長の息子である。市長の息子は後継者として次の県議選の準備を着々とすすめて、父親は市長、息子は県議と親子で大村市政を私物化し、4年後は父親の跡を継ぎ、市長を狙っている。それが事実ならば、北朝鮮と何ら変わらない。松本王朝が三代続くことになる。そのような

世襲に対する批判が市民の間に広がってきているのも事実である。

そしてもう一つ、面白い話が聞こえてきた。市議会議員選挙に落選した北村候補が、いきなり市長選にでると聞いた時から訝しかったし、常識では考えにくい。分相応という言葉があるが、あまりにも不自然すぎた。北村候補の出馬だったが、案の定、裏があった。

松本氏の息子と北村氏は、青年会議所の仲間である。松本氏の息子は「北村は俺が出させた。松本、里脇の一対一だったら、松本が不利だから、反現職の票が里脇に集まらないように北村を出した。」と自慢げに語っている。私も青年会議所関係者に直接聞かされた時は、さすがは政治家三代のDNAには呆れるやら、感心するやらである。

また、くしくも先日開催されたマニフェスト討論会で、松本氏は北村氏を自分のブレインに、北村氏は松本氏を自分の顧問にと、お互いにエールを送るといふ猿芝居を演じ、墓穴を掘ってしまった。やはり裏があったと、あきれ果てた市民も多いはずである。

大村市民の代表は誰がよいのか。市民の良識が問われている。

(平成22年9月22日)



現職で五期目の松本候補

# 健全な市政を！

大村市が総合評価方式で発注していた「大村市給食センター設計業務」は大建設設計に決定した。大村市はまだ、正式には発表していないが、本誌の特殊な人脈と調査で大建設設計に早い段階で既に決定していた事実が判明した。

今回の設計業務にエントリールされていた設計会社は大建設設計・パシコン・楠山設計・山下設計・梓設計の6社だったが、一番、巧妙に根回しした大建設設計に決定している。因みに給食センターだから調理器が予算の大半を占める。その調理器メーカーも市長側近の●●と大建設設計とアイホーは内々に決定している。9月24日、27億円の公共工事を総合評価方式入札という官製談合で「大建設設計」に決定、9月26日、大村市長選挙告示、とても解りやすい、懲りない松本市政である。これから詳細を公表して行く。

## 9月26日告示・10月3日投票！ (大村市長選挙)

「市長(69)」VS「前市議会議長で元私設秘書(51)」  
現職だった甲斐田邦彦氏を破り、大村市長に返り咲いた松本崇市長(69歳)。あれから8年(平成14年9月30日)、任期満了に伴う大村市長選が、9月26日告示され、10月3日に投票が行われる。

現職で5期目(通算)を目指す松本市長に挑むのは、前市議会議長で松本氏の私設秘書でもあった里脇清隆氏(51歳)、因縁の師弟対決とも言われる所以である。そこに社会福祉法人理事の北村貴寿氏(37歳)が参戦。三つ巴の戦いの様相だが、事実上は師弟対決の一騎打ちの戦いである。

松本氏が敗れることでもあれば、一気に世代交代が進むことになる。今後の大村市の政界(来年4月の統一地方選)を占う意味でも、今回の市長選は大きな意味を持つ選挙である。その分、批判合戦もヒートアップ、選挙ムードも一気に高まってきている。

総合運動公園建設工事(約35億円)、給食センター建設工事(約27億円)、多目的広場建設工事(約10億円)、大村競艇建替工事(約70億円)、市民交流プラザ市営住宅建設工事(約11億円)と大村市はメニューも豊富だが、話題も人脈も豊富である。日刊セイケイは26日の告示まで大村市長選の加熱する現場を、8年ぶりに密着レポートしてみる。

## さとわき清隆を励ます 決起大会！(大村市)

9月25日午後7時、大村市民会館で「さとわき清隆を励ます決起大会」が開かれた。久しぶりの大村市民会館だったが、会場に溢れる熱気と人の数(約2000人)には正直言って、驚いた。人の数にも驚いたが、もっと驚いたのは弁士の多彩さと、そのスピーチの迫力と内容の濃ゆさだった。

トップバッターで登場した村崎浩史市議(30歳)の大村を「もう変えんば」との熱い思いは会場に来ていた一人一人に伝わった。サプライズだったのは武雄市から37分もかけて駆けつけて来た樋渡啓祐市長のユーモア溢れるスピーチだ。樋渡啓祐市長は新人の時に現職市長をダブルスコアで破って当選した名物市長として有名だが、武雄市のトップセールスマンとしても名を馳せている。「さとわき清隆」氏が目標とする「行動する市長」でもある。また、「さとわき清隆」氏の応援に駆けつけた来賓も豪華だった。五島からジェットフォイルを乗り継いで駆けつけてきた民主党の若手のホープ、山田 博県議、上五島から副議長の馬込 彰県議(自民党)、南島原市の松島県議、佐世保市から末次県議、長崎市から中山 功(自民党)、佐藤 亨(自民党)の両県議に高田 勇元知事と多彩な顔ぶれだった。

さとわき清隆氏が大村市長に当選したら県政は勿論、中央との強いパイプは間違いなく大村市の活性化(大村空港の24時間化)と発展(県立図書館誘致等)に寄与する。また、東京から飛んできた紅一点の片山さつき参議の父系は大村藩の武士、朝長氏だという。さすがは元祖小泉チルドレンだけあって会場を沸かせていた。山

田県議、馬込県議の迫力というか気魄溢れるスピーチに少々押され気味だったが「さとわき清隆」氏のスピーチには誠実と実直さを感じて取れてグーだった。最後は「小林かつとし節」のユーモアと迫力で締めくくったが、「もう変えんば大村」を十分に実感した「さとわき清隆を励ます決起大会」だった。

## 大村市長選挙が告示された！

現職で5期目(通算で20年)を目指す松本候補に対して、新人2人が挑む三つ巴の戦いは――

松本候補(69歳)が実績を訴え、給食センター(告示2日前の9月24日、大建設設計に決定)等の箱物行政の継続を主張するのに対し、「改革刷新」を主張する新人2人は、現職の市政運営を厳しく批判する。

新人で前市議会議長の「さとわき候補(51歳)」は大村市に「大村市営業部」を設置するなど、ユニークで斬新なアイデアと行動力で大村市を「変えんば」と市民一人一人に支持を訴えている。武雄市で既に改革に成功している「樋渡啓祐市長」も「さとわき候補」の改革を強力に後押し、武雄市からわざわざ時間を作っては飛んできて「さとわき候補」への支持を訴えている。この二人がタッグを組んだら、大村も「大きな村」から真の「大きな市」に更に発展しそうな期待と希望が持てるから不思議である。樋渡市長さま、さとわき候補の応援、最後までよろしくお願いします。きつと変わります。

## 松本候補、さとわき候補を恫喝！

昨日、9月28日午後2時30分頃、事件は起きた。新人で前議長里脇清隆氏の街宣車が、大村市桜馬場2丁目交差点に差し掛かった時、対面方向から現職の松本候補の街宣車がやってきた。里脇候補のウグイス嬢が「松本候補の御健闘を……」と、言いかけた、その時、あろうことか松本氏は、ウグイス嬢からマイクを取りあげると、不自由していない上半身を窓から乗り出すよう

にし、里脇候補の街宣車に向かって「なんで変わらんばいかんとかくこん弱小もんがくこのホニャララが」と怒号を飛ばし、里脇候補の街宣車を恫喝し、同乗していたウグイス嬢等を畏怖させている。政治家としてというよりも人間として最悪最低である。醜態としか言いようがない。ここまで来れば、病も末期症状である。2度あることは3度ある。松本氏の正体を見た。

【編集 長崎浪人・中山洋二】



大村を変えんば！という  
さとわき候補



松本氏を顧問に！という  
北村候補



北村氏をブレンに！という  
松本候補